

第 8 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 3 年 6 月 24 日 (木) 午前 9 時 00 分 ~ 午前 11 時 20 分
場 所	オンライン会議形式 (Zoom)
出 席 委 員 (敬 称 略)	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、野田崇、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. まちづくりの成果について 2. 地域づくりの基本方針 (素案) について 3. 地域の特徴及び現状と課題について

会議概要

部 会 長	「まちづくりの成果について」、「地域づくりの基本方針 (素案) について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	<p>一応つくりとしては、まちづくりの成果の図のほうで今までにどういことができてきたかということ参照していただいて、これに対して資料 2 の頭のところにサマリーとしてどうい課題があるかという特色や課題を示していただいて、それから今回、土地利用の方針というところでもリストアップしてます内容に関して、どうい改訂が必要になるかということをご検討いただいた結果というふう理解してございます。</p> <p>どういご意見でも結構ではありますが、全体を見ていただくとすれば、最初の資料の資料 2 の 1 ページ目、2 ページ目辺りで、各地区でどうい全体構想の部門別方針に対応した内容の記述を載せていくかということに対する対応表が載ってございますので、その辺りも見ていただいて。例えば、六地蔵地区で見れば、上の交通、土地利用に関しては全てのもが載ってるけども、公園のところではその地域に応じて緑豊かなところはあるんですが、それ以外のものが載っていないとか、そういう形で整理されているというふうにご理解いただいて、この辺の項目、この地区ではこういほうがいいんじゃないかとか、ある個別地区に関してのご意見でも結構なんですけど、意見・質問等あればどなたからでもどうぞ。</p>
委 員	<p>最初は六地蔵地域なんですけれども、拠点のところ京都府域との関係性みたいなところというのは、何か考えておかなきゃいけないんじゃないのかなと気になりました。全体構想ではあまり触れていなかったかもしれませんが、地域別になったときに、六地蔵のところ京都府域との関係はどうなるのかなというところを、もし可能だったら記載していったほうがいいんじゃないのかなと思いました。</p> <p>2 点目に 14 ページの宇治のところ、工業地域の、新規に上から 2 段目のパツの付いてる、活力ある都市を目指す新たな産業立地のところですね。ここはこの内容でいいのかなとは思いますが、この辺の議論はどこまで進んだのかなと、そこを教えていただければなと思えます。以前、産業立地に関して全体構想の中で議論してたと思えますが、その結果、全て挙げていかれたのか、それとも、そこから少し絞込んだ形、あるいはもう少し見直して何かやったのか、その辺のところももし追加で説明いただければなというふう思えます。</p> <p>3 点目は細かい話なんですけど小倉ですね。23 ページの商業地域のところ。基本方針の素</p>

	<p>案のところ、一番右のところを赤書きで「個性的で特色ある」以下書いてありまして、一番最後の行に、「アクセス性の良さを生かした沿道の商業・業務集積を誘導します」とありますが、これ、具体的にどの道路のこと言っているのか、もしはっきりしてるのならば、その道路名称を書くべきかなというふうに思いました。その前段の文章は、「小倉駅周辺では」ということで、周辺の例の問題のある地域のことを言ってますが、その後ろの沿道地区のことが、多分前の道路のことを言ってるんだと思うんですが、はっきり分かってるんだったらそこまで記載したほうがいいんじゃないのかなと思いました。以上です。</p>
事務局	<p>1 点目の六地蔵地域での京都市との連携というところでございますけれど、もちろん大きく連携し関わってくる地域でもございます。実際、地区計画を現在打ってるんですけど、そちらは京都市と連携をしてまたがる形で打っているということもございまして、あと一番大きなところは、やっぱり道路ネットワークというところは切り離せないということもございまして、その2点についてはもう明確に書けるということもございまして、追記していきたいと考えております。</p> <p>2 点目の宇治地域のところでおっしゃられました工業地域ですけど、3カ所を産業立地検討エリアということでご議論いただきまして、実際実現性で、企業さんへの訪問で二層の高さなど、事業者さんが出店の意向を示されているというところを踏まえて、やはり可能性が高いというのが国道24号沿道でございましたので、先の議会のほうで、まず24号沿道から検討をさせていただきたいということを表示させていただきました。ですので、宇治地域のところに関しては、将来的には可能性のある地域ですけど、まずは24号からということで考えております。</p> <p>小倉につきましては、少し表現が抽象的になっておりまして、「個性で特色のある生活と商いが融合した」というのは、住宅が密集してる西側のイメージを持っておりまして、既存の小規模な店舗と生活が融合しているというところで、そういった良さを生かしながら街づくりをしたいというのが前段の文章です。後段のほうの、「沿道の商業地、業務集積を誘導します」というのは、府道城陽宇治線沿道をイメージして書いております。少し分かりにくいので、もう少し言葉を足していきたいと考えております。</p>
委員	<p>小倉に関しては、そうであるならば少し意味合いが違うと思いますので、文章を無理に続けなくてもいいんじゃないのかなという気がします。それから、産業に関しては、結局、24号のところだけ挙げているということなんですかね。検討して絞り込んだということですね。</p>
事務局	<p>3カ所が有望な地域ではあるというふうに宇治市では認識しておりまして、まず優先的に24号から検討してまいりたいということでございます。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランでどう書くかという議論だと思うんですよ。取りあえず何か載ってないと、関係機関と議論ができないっていう事だったから、取りあえず3つあってもいいかっていう話ではあったけど、何年も長い目で見てくと、何かよく分からない、3カ所やるのって見えるので。特に各地域別の問題意識のところを書いてある文章がみんな同じ書き方なんですよね。それはどう書いてあるかっていうと、「多様な働く場を創出するための新たな産業立地エリアの検討が必要」って書いてあって、これが幾つかの地区で同じように書いてある。必要って全部書く必要はないんじゃないかなと思いますけど、何かメリハリがあるならそ</p>

	<p>の辺のところこそこら辺りに出てくるとか、あるいは何か工夫があってもいいかなと。ただ、産業立地エリアを検討することが望ましいとか、もう少し違う表現もあるかなとは思いますが、そこはご検討ください。</p>
委員	<p>これは現状認識と、それからここで書いているのは部門別の方針の文章のところの書き方なので、今の議論からすると、恐らく六地蔵地域について全体構想からの見直し、拡充のポイントなのか、これよりまだ前なのかは分かりませんが、本編のところ若干そういうことが載ってくるということだろうと思いますので、その辺りは最終的な地域別構想を作られるときに反映いただければと思います。</p>
委員	<p>今の六地蔵のお話のところ、京都市との入りの口的な、接続面的なところが結構書かれてたと思うんですけども、六地蔵、木幡、平尾台って考えていくと、ひとまとめに六地蔵地域でいいのかなという、イメージが随分違うような感じがしています。つまり、六地蔵はそういう賑わい空間だと思うんですけども、平尾台とか木幡っていうのは、多分そういう空間では全くないと思うので、ここが六地蔵のイメージだけになってないかなというふうに思います。</p> <p>平尾台は住宅エリアですし、木幡は京阪とか JR の駅の周辺で、またちょっと違う空間性を持ったエリアで、まちづくりの活動の在り方も全く違っていると思うので、地域としてはひとまとめになってるとは思うんですけども、少し、その中で多様性に注目したような項目になっているかっていうことを入れたほうがいいのではないかと。つまり、全体構想からの見直し拡充ポイントのところでも、京都市との接続という意味では、宇治市の中での京都市ベッドタウン的な要素があって、平尾台なんかは多分そうだと思うんですけど、京都市内に通ってらっしゃる方が多いとかですね。そこでのイメージをもう少し書き足したほうがいいんじゃないかなという違和感がありました。</p> <p>槇島地域も、ものづくり産業拠点ってということではあるんですけども、実は農地っていう側面が、農業生産も、ものづくりなんだって言ったらすうかもしれないんですけども、中心的な部分の何か柱に、農業生産的なものも入ったほうがいいんじゃないかと思いました。</p>
事務局	<p>図面と合わせて見ていただくと、それぞれの地域の誘導の方針が少し見えやすくなるのかなと思っております。ただ、言葉の表現だけを見ると伝わりにくいところも確かにあるのかなというところもあります。住宅地、商業地と分けて見てまして、例えば六地蔵の駅前と言えば、どちらかという商業地になっておりまして、今先生がおっしゃった平尾台は住宅地というところで、その文言を読むと拾えるんですけど、それが市民の方に伝わりにくいというご指摘かと思しますので、少し図面と合わせてどういう表現をしていくのか、前段の導きの中で、六地蔵地域にはこういうエリアがあるよという特徴を足すとか、その辺はもう少し考えさせていただければと思います。</p>
委員	<p>全部の地域にまちづくりの方針というのを書いていただいている、たくさん出てくるのが、コミセン、文教施設みたいなハード的なものを拠点にというのが結構メインに書かれていて。それで、一部分ではまちづくり活動みたいなのが書かれてるんですけど、マップのまちづくりの成果についてというのを見ていくと、ここで言うまちづくりっていうのは、小倉の地域については、小倉駅の周辺地区まちづくり平成 30 年と書いてあったり、あと、明星町ののりあい交通事業がちらっと書いてあったりとか、いわゆる都市計画部門で持っている一部のまちづく</p>

	<p>り活動は成果として入ってるんですけども、施設ベースで、こういう施設を整備しましたっていう成果の一覧になっていて、ソフト的なものとの組み合わせがあんまり見えないという感じがあったんですね。</p> <p>公共施設の管理計画をこれから個別に作っていかないといけない、それは多分、こういう地域の、地区別の構想と当然関係はしてくる。そういう意味での、もっと都市計画的な大きな意味での立地適正化みたいな話でいけば、そのハードを利用する人たちの人口の動態と活動の必要と、そういう拠点みたいなものの整備の話が、直結的に結び付いて一体的に考えられないといけないと思いますが、あんまりそういうふうになっていない。地図の中にも、基本的に道路と建物の整備しかほとんど書かれてないんですけど、ここは何を書くイメージで今、事務局が提案されているのでしょうか。</p>
事務局	<p>都市計画の取り組みの視点でまとめているというところがございます。いろいろな地域の活動があって、それを都市計画のマスタープランの中で書くのがいいのか、それとも、もう少し広く総合計画の中で考えていく必要があるのかとか、整理をしなければならないところはございます。ただ、どちらかという、都市計画に近いまちづくりという視点での活動のところをまとめているところはございます。</p>
委員	<p>宇治地域だけがいっぱい書いてあり、他の地域はあまり書いてない気がするんですけど、それでいいですかね。小倉地域に関して26ページ見ると、3-5は、地域に住む人々が小倉地域へ愛着を育み、子どもたちに将来胸を張って伝えることができるまちにするため、文教施設やコミュニティーセンターなどを拠点としたまちづくりに努めますと書いてあるだけで、他もあまり変わりがないような気がします。</p>
委員	<p>そうですね。小倉地区の場合は、23ページのところに今やってるまちづくりの、商業と生活の融合っていうのがイメージとしてあるので、逆に商業地のところへ書き込まれてるんですけど、これは商業地のところへ書き込みでいいのかっていう話は実際にあります。だから、多分そこにまちづくりのイメージが書き込まれてるんだと思います。</p>
委員	<p>ここで議論しなきゃいけないのは、施設ベースで書くのか、ある程度主体ベース的なもので書くのか、あるいはまちづくりの在り方のイメージゴールで書くのか、その辺りはここで議論して何を書き込むかっていうのを決めないと、全然違ってくると思うんです。</p> <p>例えば小倉地域では、生活施設と商業地域を融合させるまちづくりをするっていうふう書いてますよね。そのために、例えばまちづくりの計画を立てて、その地域の人々を支援してるわけですよ。ここはなぜかまちづくり協議会の形は取ってなくて、全然違う、自主的な、民間で立ち上げた団体と連携してやってらっしゃるわけですね。</p> <p>宇治地域だったら、アーバンデザインセンター宇治と連携してやってる。だから、つまりそういう地域の団体や主体的な活動と組み合わせながら、例えばこの都市計画の具現化を、まちづくりを推進してくとかですね。そのときに何が拠点になるかっていうのは、公共施設拠点のこういう話でいいのか、あるいは、もっと民間が立ち上げるような小さな拠点整備を支援していくのかっていうのは、それは方針としても随分違うんじゃないかと思うんですよ。</p>
委員	<p>ここについては、少なくともパートナーシップのまちづくりと言ってるところと関係してるんだろうと思うんですよ。そういうことを、そのベースに施設があるから施設の話が書いて</p>

	<p>であったんですけど、そのパートナーシップによるまちづくりを大きく打ち出してるし、それから、その地域の方々と一緒に進めていく都市計画みたいな議論もやっぱりあるわけですから、その辺りのところが拾えることは、この部分しか多分ないと思うので、拾えたほうがいいだろうなと思います。そういう方針的なことは具体的に何か全体であっていいと思います。だから、個別の団体の名称とか書くのはよくないかもしれませんが、そういったものを入れていくっていうのもいいんじゃないかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>大事なポイントが今、議論になっていますけど、研究的に言えば「まちづくり」という言葉の定義と都市計画とのずれ自身が、実はほんとには気になって、そこからどう入っていくかっていうのも一つあると思う。ただ、都市計画とまちづくりは必ずしも十分に重ならないというところを、どうメッセージとして伝えるかというところは一つ大事かと思っています。その中で、特にパートナーシップっていうことを強調するなら、まず一つは、このまちづくり活動の方針は、各地域別以前に、パートナーシップで進めていくんだというその方針自身が、全体をくくる一つの言わば戦略として表明されるべきだろうし、パートナーシップとうたっているところは、まさにこれだと思うんです。</p> <p>各地域でどうするかということになると、まず一つは、これから地域に行政の皆さんが入って行って、今のような議論が絶対出てくると思うんですが、その議論をどこまでフィードバックする用意があるのかということかと思っています。</p> <p>かたくなに、狭い意味での都市計画、あるいはハードを、あるいは空間計画に限定したところだけで、この方針のところを最終的に記述するのか、それとも、関連する、より包括的な事項として、課題的な意味合いも含めてそこに書き込むのかという考え方はあり得ると思います。しかし一方で、聞いてみた上で出てきたことをある程度柔軟にフィードバックするつもりであるならば、このところは、まだ書き込まれてないところを含めて、最終的に、ここがより明確に記述されるという留保条件付きで、一つの素材だけを提示してるというふうにもいいかと思っています。例えば地域の中でもモザイク構造になってるとか、そういう話も間違いなく地域の人から出てくるということですよ。しかしもう一方で、モザイク構造になっていると同時に、地域のシンボルというのかな、アイデンティティーは何だという議論も間違いなく出てくるわけで、そのアイデンティティーを守りながら、しかしモザイク構造をいい意味で、コーディネートしたいという話が地域の皆さんの中から出てくるのが一番好ましいわけですね。その全てをここに書けるのかという書けないのですが、ただ、今のような地域のアイデンティティーとか、それから地域の多様性とその関連性ということにそれなりにきちんと配慮した記述に、今後していくというのは大事だと思う。</p> <p>先ほどの議論の中でも、交通の問題もそうですし、災害の問題もそうですけど、全部同じ文で書かれているんだけど、最終的にはそこに少しでもある形容詞がくっつくとか、そういう形で地域の固有性が少し織り込まれたような記述になるのが、本当が一番望ましいと思います。そうすると今、ここで全部それをやるのではなくて、少し白紙の部分を残しておいて、最終的には反映させるということもありかなというふうにも思います。</p>
<p>委員</p>	<p>各地区でオープンハウスされたときに少し入れていく、あるいはここでも各地区別に、方向性をもってこんなのあるんじゃないっていうようなことを情報収集いただければ、ここに</p>

	<p>使うべき、少なくとも最初のキーワードですかね、まちづくりの方針って書いてあるところの中に、例えば地域によっては文教施設を中核としたと書いていないのも幾つかあるので、そうやって見ていただくと、そこは地域の個性が反映されてると思うんです。そういうものは生かされてるとこなので、他の地域についても変えられるなら変えておいて準備されるのもいいかなとか、あるいはオープンハウスのときに複数案の中でどれがいいですかみたいな話するとか、何か工夫があってもいいかもなってそこは思います。</p>
<p>委員</p>	<p>3 - 5 は非常に重要な部分で、ある種ののりしろです。これは、総合計画との関連性がありますし、それから市民がもう少し、市民的センスや常識で考えるまちづくりの幅と、都市計画で捨てるまちづくりというのはやっぱり違う。違うけれども、やっぱりいろいろ意見出てくるのを、その接点をどこに求めるのかということに関して、やはり接点をつくるという意味があるということは、どこかで表明しておく必要はある。そうすると、このまちづくり活動の方針というのは、一種のそういう包括性とか接点性とか課題とかいうのも一種拾い上げていく事項として考えると、もっと、積極的、戦略的に対応できるのではないかなというふうに思います。</p> <p>適応的なマネジメントっていうのも、結局そういうことをしなければできないのではないかと。その上で、このワークショップをしていく中では、地域の個別性とか多様性とか、もう一方で、私たちのアイデンティティを何にするのかというようなところに関して、ぜひいろいろご意見を伺ってもら。しかし、それが即、簡単にここに表現できるかどうか分かりませんが、皆さんとそういうメッセージを共有し合いながら、このマスタープランが努力をしながら、相互に学習する場にすればいいのではないかなというふうに思います。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 2 の 1 ページの全体構想部門別と地域区分の対応表があると思うんですね。これは、前回の都市計画マスタープランの改訂のところには、どうもこの図は挟まってないので、ぜひ、次回はこれを入れたほうがいいんじゃないかなと思うんですけども。</p> <p>例えばこの表を見たときに、1 ページ目と 2 ページ目ありますけれど、裏をめくって 2 ページ目は、住宅地、商業業務地、工業地っていうふうに裏に用途地区が張り付いているので、各地区の違いが多少はあるなということが分かるんですが、1 ページ目のほうに戻って、土地利用から交通から、最後都市景観まで、この辺は割と都市全体にまたがる話でもありますから、例えば重点的な関係がある方針っていうのを塗りつぶした場合に、あんまり各地区の特徴が分からない。都市計画で全体に係っていることが项目的に多いのでそうなるのは分かるんですけども、地域別の構想につなげるときに、その重点項目が共通し過ぎてて分かりにくい。重点的な項目というのを決めるときに、マスタープランから地域別構想に移るときに、そこを直接つなげて重点的な関係がある項目っていうのを決めていいのか、そこは地域でいろいろ個別に活動している実績だとか、地域のご意見とかがあると思うんです。例えば現行の計画の見直しのポイントの一覧表だと、地域づくりの基本方針っていうところをどう改訂するかっていうふうに資料を作っていたらいいんですけども、この地域づくりの基本方針は、もう一度やっぱり行政側の視点に引き戻して、どういう施策が打てるかということになっているので、やや住民としては共有しにくいかなという気がします。その前に、ワークショップとかで前回出された地域づくりのテーマというのがありますから、例えば、もう一度 1 ページ</p>

	<p>ジの表に戻りますけど、この辺りで重点的な関係がある方針を決めるときに、やっぱりワークショップ等でどういうテーマが出されて、地元の方がどういうことを気にしてらっしゃるかっていうのを、少し重点的な関係があるところっていうのに織り込んでいくと、もう少し行政の側から地域の皆さんのご意見をくみ取るうという姿勢というか、何がその地域でテーマになっているかが分かりやすくなる可能性はないかなと思ってこの表を見ていました。</p>
委員	<p>例えば地域づくりのテーマというふうに地域で出した課題が、このオレンジとどういうふうに関わっているかというようなこととかが載ってもいいんじゃないかっていうふうに思いました。あるいは、今回またオープンハウスとかで意見が出てきたことも反映して出てくるんじゃないかと思うんですけど、やや一方通行的に見えるところと、特徴が見えにくいところが改善できればいいかなっていうふうに思っています。</p>
事務局	<p>実はわれわれも、この関係性っていうのは非常に悩んだところがありまして。やはり地域の、今まで直にお声を聞いてると、広い範囲のご意見いただいているので、どうしても丸が増えてしまっているところがございます。今後、地域に入ってお声というところでもう少し重点のところを肉付けしていけないかなというのは、今のご意見もいただいて思うところがございます。</p>
委員	<p>都市計画ができることと、それからまちづくりができることの範囲の違いという議論がありました。その辺りの範囲の違いを少し意識できるようなことも含めて、両方の側からの視点みたいなものが盛り込まれるといいのかなっていうふうに思いました。</p>
委員	<p>宇治市の特色地区別を分けることについて、基本的に拠点っていう名前を付けて、それぞれの場所にその拠点がある。それで、当初考えていた拠点というのは、例えば六地蔵であれば商業とか、あるいは副都心的というか、そういう宇治の次に中核的な、そういうふうなイメージだったんですね。ですから、ここにいろんなものを、むしろ別の機能を持たせるというような議論もあったんですが、その直後に、地下鉄ができたいろいろな中で、商業施設が撤退する、ホテルが撤退するというので、当初のイメージとは随分変わっていったような状況が現在ある。そういう観点で言うと、当時のワークショップで議論をしていたような話を現在そのまま使うっていうことは、なかなか難しいところも幾つかある。</p> <p>ただ、つくりとしては、今申しあげましたように、この地区はそれぞれが異質なものを中に含んでるんですが、当時拠点と言われたものが少なくとも1つずつ入っているというような分け方になっています。山間地区は少し違うかもしれませんが、そういう形になっています。だから、どっちかというと同じ地区の中でも多様性が比較的一定あることが多いんですね。だから、ある程度こういうふうな施策を並べると同じように見えるところも出てくる。ただ、地区によってないものもあるので、逆に白いところがいっぱい出てくると、そこは個性的なところだと思いつつ、僕は眺めてたんですが。ただ、さっきの3-5に関してはこの表に入っていないので、あれはもうもっと方針的な議論なので、だからそこについてはちゃんとそれぞれのそこを見て、それから今度見て、もう一回ここ見直すと、もっとここが必要だったんじゃないのかって議論もやっぱりあるのかなと思ったりしました。だから、ぜひともワークショップっていいですか、今度の地域に入られた後での結果を反映して、もう少し記述に力を入れるとか、丸を、色を濃くするとか、そんなので必要なところがあれば、その辺またご報告いただけたら</p>

	<p>するといいかないと思いました。</p>
委員	<p>地域に入るときに、都市計画の皆さんだけがそこに行かれるのか、それとも、それ以外にも少し他の部署の方も、オブザーバーでもいいから参加する事が可能なのかというのは、随分違うと思います。私は、実は今回問われてるもう一つ大きなことは、もう既に繰り返されたかもしれませんが、都市計画にはもちろんできることとできないことがあります、やはりこの際、都市計画がもっと現場に入って、そしてまちづくりに関してコミュニケーションを促していくような場をデザインしていく、そのイニシアチブを取るぐらいの姿勢と体制づくりができるかどうかというのは、結構大きいと思います。逆に言うと、これができなければ、ここで謳っているいろんな適応的なマネジメントとかそういうのも、掛け声で終わってしまう可能性がある。ですから、少なくとも覚悟として、そういう踏み出しが必要だとなる。都市計画のサイドだけで決められないかもしれないけれども、私はこういう地域の中に入って、まちづくりという言葉を使って議論すると、都市計画でくれないところを含めているような質問なり意見が出てくることを、しっかり受け止める行政全体としての姿勢が私は必要だと思っている。いきなり大勢の方にとってはないんですけど、1~2名違う部局の方もそこに顔を出されるとか、そういうことは可能なんではないでしょうか。</p>
事務局	<p>現在のところは、都市計画で対応しようと考えているところなんですけれど、広い範囲のご意見も出てくる可能性もございますので、その辺りは一回検討させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>都市計画マスタープランを作るとき、それが総合計画に結局ある種フィードバックされない、都市計画でいろいろ言っても宇治市の施策に簡単に反映できない。こういう問題意識もあって今、合わせていっている。そのタイミングに合わせて住民の皆さんからいろいろ都市計画に関連する、まちづくりと全く一緒じゃないけど、関連するところの施策を評価してもらいながらご意見を聞くと、それを反映するというプロセスをできたら今後、今回から取っていききたいという意味です。そうだとしたら、例えば総合計画に携わられるような人とか、あるいは他の、その地域の皆さんとインターフェースになってくれそうな福祉の方とかね、あるいは商工の方なのか分かりませんが、そういう人たちを入れてもらって、本音の意見を引き出しながら都市計画マスタープランにインプットもらえるという機会をわざとつくるみたいなことがあっても本当はいいんじゃないかと、そういうことじゃないかなと思うんです。</p>
委員	<p>このマスタープラン検討部会としては、多少踏み込んで私も構わないと思います。つまりできることとできないことは最後都市計画審議会が考えればよいことなんです。だから、少し強めのメッセージを出していただいたほうが、それはやはり部局だけで動けないこともありますけど、それはある意味で市長さんも含めて、もう少し上のレベルまでこのスピリッツというか、この考え方共有されないと動かないことなので、そういう発信をするという意味でも、多少私は踏み込んだメッセージ出してもいいんじゃないかと思えます。</p>
委員	<p>地域から見ると、前のワークショップのときでもそうですけれども、行政の文書を地域の方が完全にそこに合わせて発言してくれることはないと思う。だから、地域に入れば、丸ごと受け止めるしかないし、逆に極言しようとする議論が出てこない。だから、そこら辺のところを上手にハンドリングしてもらってやれば、恐らく実りのあるものになると思いますので、ぜひ、実りのある地域からの意見聴取ができるように、少し工夫いただけたらと思います。</p>

事務局	<p>はい。少し工夫をさせていただきます。そして総合計画のほうでも、各部署がそちらのほうには入って、いろんな視点でのご議論というのは今後させてもらう予定ですので、マスタープランでもそれを逆にフィードバックするような意味でも、そういう政策部局などに働き掛けてみますのでよろしくお願いたします。</p>
委員	<p>3 - 5 のまちづくり活動の方針のところ、ここだけすごく詳しいんですけども、現行の内容のところ、「自治会組織に加え、地域内の学生や事業者、専門家」というところが削除されているけれども、これは一体どうなったんですかということと、新たな内容のところで、「また、JR・京阪宇治」とあるんだけど、文字だけ見ると、商店街とお茶と歴史と産業支援をまとめて子育て支援と言われても何のことが分からない。これは多分何か具体的な事業があるんだろうと思うのですが、それは何なのかを教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>宇治地域のところで少し子育てとか詳しく書いているところがございますけれど、こちらのほうは子育てというところを視点に、さまざまな各分野の部署が集まって一つのまちづくりの方向を議論しようというプラットフォームをつくってやっているところがございます。決して子育て世代だけではなくて、観光であったりとか都市の整備であったりとか、さまざまなものをもってこの住みやすい環境をつくらうではないか、子育てしやすい環境をつくらうではないかという視点で今、取り組んでいるものでございます。</p>
委員	<p>先ほどからずっと議論されてたまちづくり活動の方針なんですけれども、私は都市計画分野のプロパーの議論をフォローしてないものですから教えていただきたいです。まちづくり活動ってというのは行政の活動ではなくて、市民の活動なわけですよね。それで、その市民の活動を行政が計画すると、マスタープランというのは行政計画でしょうから、行政計画は行政の活動を整備、統合するという、そういう役割を持つてるんだろうと思うんですが。そこでまちづくり活動の方針なり市民の活動をプランするというのは、つまりマスタープランというのは単なる行政計画ではなくて、公私共同的な性格を持っているからそういうふうになると。市民の活動までプランの対象にするんだと、そういう理解になるんですかね。だから、マスタープランは単なる行政計画ではないんですね。</p>
事務局	<p>マスタープランにつきましては、確かに都市計画法の中の規定ですので行政の計画ではあるのですが、目指すべきものというものは、やはり市民の方がいろいろな施設を使ったりとか、目指すべき方向をご理解していただいて活動することによってゴールにたどり着くものであると考えておりますので、ゴールを目指す一つになると思っております。</p>
部会長	<p>全体方針の中でパートナーシップのまちづくりと言ってますし、それからアダプティブマネジメントとも言ってます。そこに市民の声を反映するというファンクションは、どう考えても必要になってくる。その反映の仕方ということで、もちろん方針に沿ってどういうことができたかという確認とか、あるいはその方向性を議論するとか、そういう部分は最低限あると思う。その部分についての内容を支援するという意味で、あるいはそこで地域の方々と議論した結果、方向性としてはこういうことを置きたいなという、そういうことも書き込んでおいて悪くはないんだろうと思いますし、恐らく最近のこういったものでやろうとすれば、そんなものがあるほうが魂が入っていいような気が僕はするんですけど。これはちょっとまたご了解いただければというふうにしたいんですけども、事務局はそういう思いでいてく</p>

	<p>れてるんだらうなと思います。</p> <p>非常にトラディショナルな観点で言うとちょっとどうなのかと思いますが、まちづくりというのは都市計画との関連で入ってきたのは結構長く、もうずいぶん経っているとは思いますが、そういうつくりもおかしくはないんじゃないかなと個人的には思いますが、何か問題があれば都市計画審議会のほうで削って頂ければと思います。他にご意見ございませんか。</p>
委員	<p>そういう意味では 17 ページのところの書きぶりですが、今の話で、まちづくり活動の方針ということで、どういうふうに関わっていくかということを中心に、記述をもう一遍見直してもいいのかなと、改めて見たときに思いました。具体的な整備方針みたいなことを書いておりますけども、それはもう前段で書いてる話だと思いますので、もう少しそれを進めていくために、住民の方あるいは観光客の方とどんな連携を取っていくのか、どういう支援をしていくのかと、そういったところをここで書くほうがいいと思います。前段は、前の拠点整備とかで書かれてると思いますので、少し見直していただければいいんじゃないのかなと思いました。</p>
委員	<p>地域区分の設定はもう決まっているのですよね。なんか例えば黄檗がまちのほうと山間部とすごく広いので、地域に入ったときにわが事として考えにくいんじゃないのかなというふうに思いました。それぞれ分けて話をされるのか、何か少し工夫が要ののかなというふうに思いました。</p> <p>まちづくりのところは何を書くかということなんですけれども、京都市なんかはやはり担当者レベルですごくフランクに話す機会を割と持つてるような気がしている。市民でこういう活動してるよとか、福祉とか教育の場でも担当者レベルのそういう話をするような場っていうのはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今、委員おっしゃられたとおり黄檗地域っていうのは、実はかなり広く設定をしております、この中に市街化区域と調整区域という 2 つのエリアが入っております。基本的なエリアの設定では、中学校区であったりとか、この地域の方がどこの駅に向かわれるのが多いとか、そういったところでエリアを設定しているところがあって広がっています。</p> <p>今回の地域に入っていく説明会であったりオープンハウスをするときは、例えば黄檗地域であれば、市街化区域のエリアの方と調整区域のエリアの方と、やはり性質が違いますので分けて説明会をさせていただいてご意見を伺おうと思っております。</p> <p>2 点目のフランクな関係というのは、相手さんがどう思われてるかというのはあるんですけど、例えばまちづくり協議会の方であったりとか、まちづくりに興味を持たれているということではわれわれに情報いただいている方には、意見交換をざっくばらんにしようという場を毎年設けております。そこでは、代表になられる方が今年のテーマはこれにしようかというのも一緒に考えていただいて、そのテーマをベースに意見交換をさせてもらったりという場はつくっております。ただ、コロナの関係もあって、去年は開催できていないところはあるんですけど、そういったいろんな相談、こんな困り事があるというようなことはいつも窓口で受け付けられるような体制は、日頃からつくっているつもりでございます。</p>
委員	<p>庁内でもう少しこの都市計画マスタープランだけに限らなくてもいいので、総合計画でもなんでもいいですが、ちょっと昔なら多分たばこを吸いながらとか、そういう情報交換していたと思うのですが、そんな場はありますか。今はコロナやからやりにくいですが。違う部局の人</p>

	とかが、ずっと一緒に関わって特に問題を決めずに話すような機会がありますか。
事務局	大概何らかテーマを持っての協議が多いです。
委員	例えばわざとそういうものをつくるっていう機会、例えば月曜日の3時だけはみんなフリーで、喫茶室のどこかに半分の職員そこに集まって、適当にお茶でも飲みながら相談してみるとか、あるいは何してもいい時間つくるとか。そういうのが最近いろいろあるから、何かそういう工夫みたいなものもあったほうがいいんじゃないかなというところかと思います。何か具体的にこういう提案でもあったら、ひょっとしたらうまくそういう意思疎通できるようなチャンスができるかもしれません。
部長	「地域の特徴及び現状と課題について」事務局より説明を。
事務局	資料説明
委員	<p>若干気になるのは、ほとんどどの地域でも宇治市平均と変わらないというところですね。市街地と山間地で同じかとか、要するにこの山間地域だけ取り出すと違っていますという議論だったが、サンプルが少ないのでほとんど議論できないですね。だけど、同じ黄檗とか、あるいは六地蔵とか、いろんなところでまだ、山間地区的なところもあるかと思いますが、そういったところではどうなのかとか、中での分散、違っているのも若干気にはなるところ。あんまり変わらないってことだったら、もうそれでいいけれど、その辺のところ、後で分析できたらありがたい。</p> <p>先ほど議論がありましたまちづくりの基本方針ですが、そういう言葉でまとめる3-5のところに関連するような話は、地域づくりの主な課題というところなのか、もう1個この下に何か付けるのか分かりませんが、そんなようなところで整理されるという理解でいいですかね。</p>
委員	確認ですが、今のこの資料、ご説明いただいた資料3と、それから最初の方針のところと、それと現在の都市計画マスタープランの中身を見たときに、地域づくりのテーマとかその方針みたいなのが、これで見えますかね、こんな感じ(現MPのP52)で書かれてますけども、ここの部分っていうのはどうされるおつもりなんでしょうか。
事務局	前回作ったときにワークショップなどを踏まえて、一遍このご意見を聞いてますので、まずそれを地域づくりのテーマというところにもう少し整理をして、まとめたいなと思っております。今回は、資料3でお出しをしている構成でもう一度市民の方にご意見を伺っていきいたいなと思っておりますのでございます。
委員	現在のこの地域別のテーマ、例えば、六地蔵でしたら、「北の玄関口、宇治らしい文化、商業のまち」、「誰でもが心豊かに安全に暮らし続ける自然と文化のまち」みたいな、こういうキャッチフレーズはなくなるということなんですかね。それとも、今日の資料の地域づくりテーマ、箱囲みの中を、もう少し次回まで整備されるということでしょうか。
事務局	先ほどご議論頂いたように、六地蔵地域でも六地蔵、木幡と広く範囲があるので、それぞれのまちの特徴をもう少し分かるように表現をしたほうがいいのではないかとこのところもございましたので、テーマは以前2つあったんですけど、こういうのも参考にしながら、次回までに少し書き込んでいきたいとは思っております。
部長	できたら、次回の部会で、また最初から議論しても大変だと思うので、できましたらそこにつ

	<p>いては素案を作っただいて、各委員の先生方に照会いただいて、こんなものを追加すべきだとか、あるいはもっとこんな情報があるはずだとかいうことを事前にもらっていただければ、よりスムーズかなと思います。</p> <p>必ずしも都市計画の範囲にとどまらなくてもいいよという理解でいいですよ。だから、そういうことで少しフレキシブルに意見をを入れていただくようにしていただければいいのではないかなと思います。</p>
委 員	<p>資料2の1ページ、2ページの方針とか関係を丸で書いておられたのを茶色に入れて、記号の意味を分かりやすくしていただいたのは結構だと思うんですが、細かいこと言えば、まずこれ、「重点的な関係がある」ってどういう意味ですか。それが1つと、それからもう1つは、横向きに見たときに全く茶色が入ってないところがあるんだけど、これはもう、まあ合格だということですか。</p> <p>その割には、例えば拡充というのが1ページの一番下にあって、これは多分かなり重点的にやらなきゃならないと思うんだけど、全く茶色が入ってないとか。この次の2ページ目もそうですけど、その重点的な関係っていうことの意味と、それから、ある行に関して言えば、全く入ってないところもあるんだけど、それはそういうふうに理解していいんですか。</p>
事 務 局	<p>1点目の「重点的な関係がある方針」ということで、少し表現が分かりにくくなっております。重点的な取り組みをしなければいけないというところで、ここの表現は直ささせていただきたいと思います。あと、色が付いていないところ、特に拡充について色が付いていないところは、もう一度精査をさせていただきます。例えば一番上のところで拡充でいきますと、2つ目の交通で見ますと、山間地域にはないというのは、もう公共交通が走っていないというところで違う施策での拾いが必要だということで色は塗っていないというところはございます。そういったところでメリハリを付けてるのですけれど、ここは苦勞をしているところでございまして、もう少し整理をさせていただきたいと思います。</p>
委 員	<p>初めて試みるんだけどあえて重点的という言葉ではないという意味なら、この拡充というところに別にこの茶色が入ってなくても分かるんですが。だから、その重点的というのは、プライオリティを高くしてるということであるならば、それはそれでいいと思うんですけど。ちょっとその重点的っていうことが気になった。</p>
部 会 長	<p>今回は、もし可能だったら地域に出すところの話も、都市計画審議会が済んでからがいいのかもしれないですけど、地域にこういう情報を持ってきますみたいなもの素案みたいなものもできたらあったほうがいいかなとは思ったりもしますが、スケジュールをまた検討いただいてご報告いただければと思います。</p> <p>ディスカッションのイメージとかそんなものもある程度共有できるといいかなと思います。今日もそういう議論、たくさんありましたので、その議論のたたき台になるようなものっていうのがあるといいなと思いました。</p>